

生薬学・天然物化学教科担当教員会議議事録

日時： 平成25年9月6日（金）16時30分～18時

開催場所： 北海道医療大学札幌キャンパス
（札幌市中央区北4条西5丁目アスティ45、12F）

出席者： 生薬学・天然物化学教科担当教員（全国薬学部、薬科大学教員）

議題： 6年制薬学教育における漢方教育の共通化について

「現代医療における漢方薬」教科書改訂について

教科書改訂 WG：木内文之（改訂作業リーダー）、小林義典、鳥居塚和生（漢方委員長）、三巻祥浩、森田博史

I 小林資正 生薬学会 会長よりの教科担当者会議の審議事項について以下の説明があった

- ・ 新モデルコアカリキュラムに基づいた薬学部において教育する必要がある漢方医療についての講義内容（漢方薬学教育）の共通化の必要性について
- ・ 薬学部における漢方薬学についての教育では、漢方処方とそれに含まれる個々の各生薬との関わりをふまえて教育することが重要性について
- ・ 日本生薬学会として漢方薬学教育への貢献の必要性について
- ・ 2008年に日本生薬学会監修という形で「現代医療における漢方薬」という本を監修しているが、この本を漢方薬学の講義で使える教科書に改訂するために、日本生薬学会が教科書改訂 WG を組織した。

教科書改訂 WG：木内文之（改訂作業リーダー）、小林義典、
鳥居塚和生、三巻祥浩、森田博史

II 教科書改訂 WG による改訂案の説明（配付資料をもとに）

1. 改訂の方針説明（木内）

コアカリの改訂に伴い、漢方教育の分類が C7（自然が生み出す薬物）から E（医療の中の漢方薬）に変更になった。

掲載処方として局方収載（予定を含む）の34処方+ α として約50処方を提案。

2. 改訂骨子の説明（鳥居塚）

なるべく文章を図表で置き換えて、学生が理解しやすい工夫をする。

ボリュームを減らして簡潔にまとめる（生薬の説明は最低限にとどめる）。

生薬の気味、薬能を解説し、構成生薬として約82種類を掲載したい。

3. ワークシートの説明（小林義典）

ワークシート形式を採用し、演習を取り入れることにより学生の理解を助ける。

各処方の出典、熱薬と寒薬の区別、五味と薬効との関係、気血水、二味の薬徴について、漢方処方を様々な角度から構成生薬を用いて説明することにより（枠をつける、色を付ける、帯に色を塗る等の作業）、漢方処方に対する生薬の位置づけを理解させる。

<質疑応答>

- 1 (野口先生) 漢方薬の副作用に関しては、成分との因果関係が明らかなものもあり、成分の解説はどうするのか。また、病名漢方については、どのように捉えて解説するのか。
- 2 (WG 鳥居塚) 成分の副作用との関係が明らかな場合には記載する。また、付録としてエキス製剤の適用を示したい。
- 3 (WG 小林) 実務実習でも使えるように、適用、副作用なども索引できるようにしたい。
- 4 (青木先生) 生薬の一味の薬効と漢方薬の構成生薬としての薬効の対応があると理解しやすいのではないか。
- 5 (WG 木内、鳥居塚) このような対応(生薬の薬効と漢方薬中の生薬の薬効)についても記載する。
- 6 (橋本先生) 各大学において漢方の授業は何年生で行っているのか。
- 7 (WG 木内、小林) 集計の結果、各大学でカリキュラムは異なるため、2～4年生での講義が中心である。
- 8 (小林会長) 重要な処方について多く記載し、処方により重みを変えた方がよいのではないか。
- 9 (北中先生) 漢方の特殊用語の解説も記載して欲しい。
- 10 (WG 鳥居塚) WEBより付録等をダウンロードする形式で対応したい。
- 11 (金城先生、羽賀先生) 日本漢方と中医学との相違点についてはどのように対応するのか。
- 12 (WG 鳥居塚) 東洋医学会との整合性をとりながら、学生が混乱しないように、必要に応じて、2つの考え方をコメントしたい。
- 13 (羽賀先生) 教科書のページ数と値段はどのくらいを考えているのか。
- 14 (WG 鳥居塚) 現状より薄く安くしたい。誰でもが教えられる漢方教育のコアの教科書を作成したい。
- 15 (小林会長) 教科書改訂WGは、改訂案をまとめるものであり、実際の改訂作業、執筆等は、日本生薬学会の先生方をお願いする予定である。皆様のご意見、御協力をお願いしたい。

平成25年度 生薬学・天然物化学教科担当学会議

所属	氏名	会議	意見交換会
北海道大学	小林 淳一	○	
北海道医療大学	高上馬 希重	○	○
北海道薬科大学	山下 浩	○	○
岩手医科大学	林 宏明	○	○
東北薬科大学	佐々木 健郎	○	○
奥羽大学	伊藤 徳家	○	○
いわき明星大学	川口 基一郎	○	○
高崎健康福祉大学	渡辺 和樹	○	○
城西大学	白瀧 義明	○	○
日本薬科大学	雨谷 栄	○	○
千葉大学	山崎 真巳	○	○
千葉大学	石橋 正巳	○	○
千葉大学	高山 廣光	○	
東邦大学	小池 一男	○	○
東邦大学	李 巍	○	○
日本大学	北中 進	○	○
日本大学	松崎 桂一	○	○
城西国際大学	奥山 恵美	○	○
帝京平成大学	石井 竹夫	○	
東京大学	阿部 郁朗	○	
東京大学	折原 裕	○	○
東京大学	淡川 孝義	○	
北里大学	小林 義典	○	○
北里大学生命研	清原 寛章	○	○
慶應義塾大学	木内 文之	○	○
慶應義塾大学	羽田 紀康	○	○
昭和大学	鳥居塚 和生	○	○
昭和大学	高松 智	○	○
昭和大学	平井 康昭	○	○
星薬科大学	森田 博史	○	○
東京薬科大学	横須賀 章人	○	○
明治薬科大学	岡田 嘉仁	○	○
明治薬科大学	小山 清隆	○	○
武蔵野大学	市瀬 浩志	○	○
昭和薬科大学	高野 昭人	○	○
帝京大学	木下 武司	○	○
富山大学	小松 かつ子	○	
富山大学	黒崎 文也	○	
金沢大学	御影 雅幸	○	
北陸大学	木津 治久	○	○
岐阜薬科大学	大山 雅義	○	○

平成25年度 生薬学・天然物化学教科担当国会議

所属	氏名	会議	意見交換会
岐阜薬科大学	田中 稔幸	○	○
静岡県立大学	野口 博司	○	○
名古屋市立大学	水上 元	○	○
名古屋市立大学	牧野 利明	○	○
名城大学	能勢 充彦	○	○
金城学院大学	永津 明人	○	○
愛知学院大学	井上 誠	○	○
愛知学院大学	田邊 宏樹	○	○
鈴鹿医療科学大学	近藤 俊哉	○	○
立命館大学	池谷 幸信	○	
京都大学	掛谷 秀昭	○	○
京都薬科大学	松田 久司	○	○
同志社女子大学	小西 天二	○	○
大阪大学	小林 資正	○	○
大阪薬科大学	谷口 雅彦	○	
大阪薬科大学	芝野 真喜雄	○	
近畿大学	松田 秀秋	○	
近畿大学	村岡 修	○	○
摂南大学	矢部 武士	○	
大阪大谷大学	上垣内 俊行	○	○
神戸薬科大学	守安 正恭	○	○
神戸薬科大学	西山 由美	○	○
兵庫医療大学	青木 俊二	○	
武庫川女子大学	石黒 京子	○	○
姫路独協大学	中村 隆典	○	
就実大学	佐々木 寛朗	○	○
広島大学	松浪 勝義	○	
安田女子大学	大塚 英昭	○	
広島国際大学	金子 哲夫	○	○
徳島大学	柏田 良樹	○	
徳島文理大学	橋本 敏弘	○	
徳島文理大学香川	代田 修	○	○
松山大学	天倉 吉章	○	○
九州大学	田中 宏幸	○	
福岡大学	金城 順英	○	○
福岡大学	大川 雅史	○	○
長崎大学	田中 隆	○	○
長崎国際大学	正山 征洋	○	○
崇城大学	池田 剛	○	○
九州保健福祉大学	大塚 功	○	○
参加人数		80名	61名